

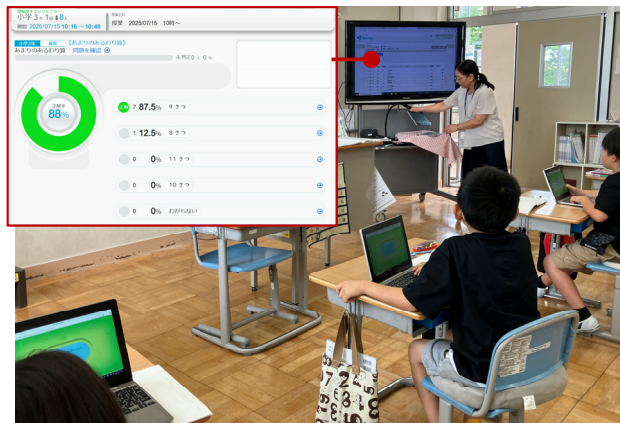


# 茨城県筑西市 教育委員会・小栗小学校

## 自ら学びを選択する力の育成に ～授業に、毎日の宿題に、長期休暇に幅広く活用～

小栗小学校では、授業ではもちろん、日々の宿題にもラインズeライブラリを活用しています。  
今回は、重点施策『確かな学力を育む教育』として、ラインズeライブラリを取り入れた実践をご紹介します。

### 授業支援機能でクラスの理解状況を見える化



▲作成したテンプレートから問題を出題

#### 算数 3年：あまりのあるわり算

あまりのあるわり算のまとめに入る本時では、ラインズeライブラリを適用問題として活用しました。

「授業支援機能を使うことで解答からクラスの傾向がパッと見て分かり、少人数でも有効です」と中里先生。クラスの学習状況に応じて事前に作成したテンプレートから出題し、理解度をチェックします。解答を終えると、解答解説を表示し、考え方を確認していました。

### 自動個別課題で苦手・得意を見える化



▲学び方は「友達と」を選択し、分からないところを教え合う

授業支援機能の後は「自動個別課題」に取り組みます。中里先生は、課題タイプ「テスト対策」から本時の教科書範囲を選択し、自動個別課題を出題していました。すき間時間や日々の宿題で取り組んだ学習履歴を生かし、個に応じた課題を出題できます。

「少人数クラスも、理解度には差があります。自動個別課題のテスト対策は、出題範囲を指定でき、児童一人一人に合った課題から、自分自身で選択できるところが良いです」と笑顔で話してくれました。

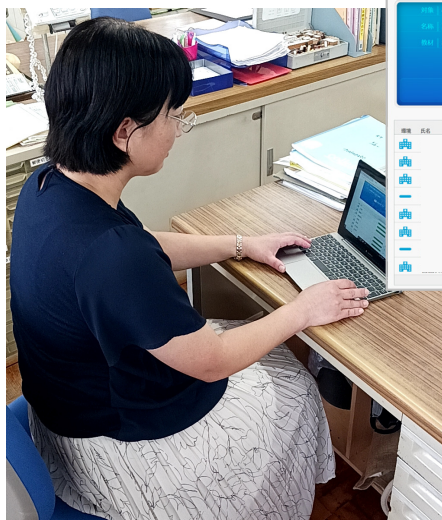
### インタビュー 学習の自律とクラスに広がる一体感

自動個別課題では、児童一人一人に合った課題を時間をかけずに準備でき、自動集計で取り組み状況を確認できるため、助かっています。特に家庭学習では解答解説を使って、自分で問題を解き進めることができます。また、メダルや植物のイラストで努力が見える化され、友達の成果通知がやる気を引き出し、クラス全体に一体感も生まれます。読解スキル問題も助かっています。全ての基本は読解力です。ラインズeライブラリの読解スキル問題は、文字量が適度で、日頃使い慣れていることもあり苦手意識なく取り組んでいます。



研究主任・3年担任  
中里 千夏 先生



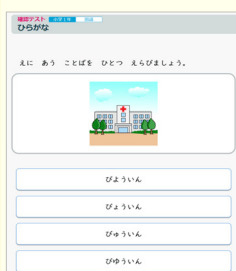


▲学習指示一覧から学習状況を確認

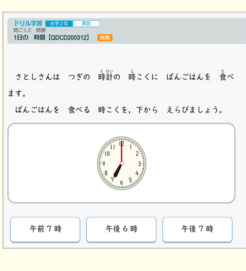
学年	科目	学習時間	提出率	残り時間
1年	国語	30 / 30	82%	66分
1年	算数	30 / 30	100%	46分
1年	英語	30 / 30	58%	65分
1年	理科	0 / 30	-	-
1年	社会	30 / 30	81%	32分
1年	総合	15 / 30	96%	12分
1年	体育	0 / 30	-	-
1年	音楽	0 / 30	-	-
1年	美術	30 / 30	83%	37分

ラインズeライブラリで毎日の宿題を出題し、翌朝に学習状況を確認し、未提出の児童には声掛けを行います。出題して終わりではなく「**出題→確認**」を定着するまで繰り返すことで、**今では、朝の自習や授業でも日常的に活用しています**。保護者からも家庭学習の様子や、子どもに声をかけてサポートしていることを聞いています。長期休暇の宿題では、**出題日時を予約設定できるため、前・後期に分けて、各学年で選んだ教材を出題します**。児童は、長期休暇前に学び方を考え、学習計画や個別の目標を立て、『自ら学ぶ力』を育てることにもつながっているそうです。

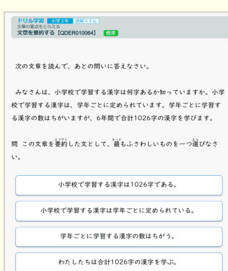
## 各学年の出題例（確認テスト・読解スキル問題・思考力育成問題など）



▲小1国語 確認テスト ひらがな



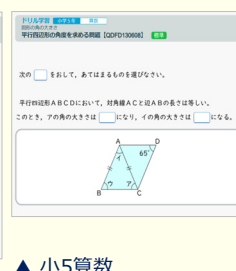
▲小2算数 1日の時間



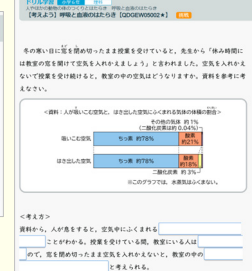
▲小3読解スキル 文章を要約する



▲小4社会 中国・四国地方



▲小5算数 平行四辺形の角度を求める問題



▲小6理科【考えよう】呼吸と血液のはたらき

## インタビュー 子どもが主体となる学びの実現



校長 高木 真由美 先生

本校では、ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を推進しています。「一人で」「友達と」「先生と」の学び方選択学習で課題に取り組むことで、深く考えたり教え合ったりする姿が見られます。さらに授業でラインズeライブラリを活用することで、学習内容を選択でき、学びの幅も広がります。**ラインズeライブラリは自分の学習進度や成果を視覚的に把握できるため、やる気や達成感につながっています。「ここが分からないから別の練習を」と自ら学びを選択し、考える力が身に付いているのは大きな成果です**。今後も学習ツールとして活用し、児童一人一人の学びを支えていきたいです。そのためには教員自身も学び続ける姿勢を持ち続けることが欠かせないと感じています。

## ICT活用で広がる学びの選択肢

紙の学習が苦手な取り組みづらい子どもにとっては、タブレットを使う方が学びやすい場合もあります。紙かタブレットか、子ども自身が選べることも大切です。

小栗小学校は授業とICTを「ベストミックス」させた実践で注目しています。ICTを授業のどこでどのように組み込むか、ねらいを明確化することで、子どもはより自分に合った学び方を選択でき、先生の業務軽減にもつながります。ICTを活用すれば、効率的に学習状況を把握でき、個別支援に力を注げます。**子どもに必要なのは“学ぶ力”です。ラインズeライブラリは学びの選択肢を広げ、主体的に学ぶきっかけを与えてくれる教材です。今後も一人一人に最適な学びの環境を整えたいと思っています。**



筑西市教育委員会 佐藤 秀行 指導主事